



おさらい

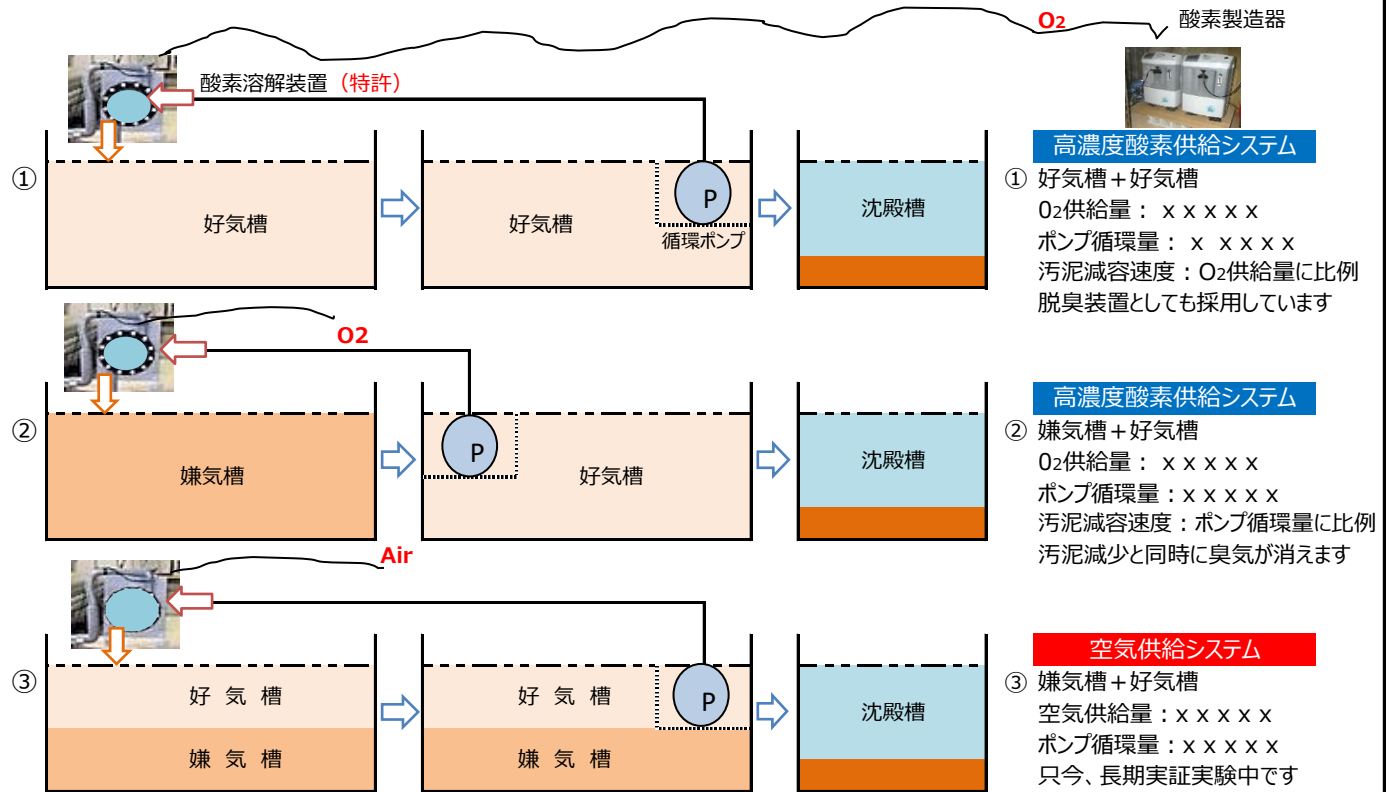
事業方針：丁寧な・熱心な作業も技術の一つです！

## 持続可能なメンテナンス

### 「特許：酸素溶解装置」利用による汚泥減容の仕組み

dsp排水処理槽から発生する、余剰汚泥の大部分は活性汚泥（好気性微生物を含んだ、生きた浮遊性有機物）と僅かな屍骸です。弊社の高濃度酸素による汚泥減容の仕組みは、既存の処理槽に独自開発の「酸素溶解装置」を付加設置し、O<sub>2</sub>の酸化力を利用して活性汚泥の分解性を高め、水と炭酸ガスにほぼ分解し、余剰な活性汚泥を発生させない仕組みです。空気曝気と高濃度酸素溶解を利用した「ハイブリッド」なエコ・システムです。

汚泥減容装置は、好気槽のDOを高めるため「酸素製造器と酸素溶解装置と循環ポンプ」3基の組み合わせで成り立っています。dsp排水処理槽には、嫌気槽で生ゴミを可溶化する省エネ処理槽もあります。嫌気槽で可溶化するには少し時間を要します。汚泥の堆積が限度を超えると引き抜くのが定石です。ここで高濃度酸素を利用した「ハイブリッド・システム」を付加設置すれば、汚泥は減容され引き抜く必要はなくなります。副次効果で、①処理槽から臭気と害虫が消えます。②もちろん汚泥引抜費用は無くなります。



## 水物語 No 120 直木賞を辞退した山本周五郎は、曲軒(へそまがい)か？



山本周五郎は、1930年山梨県に生まれました。小学校の先生から小説家になるように言われるほど、幼い頃から物語をつくるのが得意であったそうです。小学校を卒業してからは、質店に住み込みで働き、店主の助けを受けながら小説を書きはじめました。

この店の主人の名前が「山本周五郎」であり、ペンメームの由来です。

1940年「日本婦道記」で直木賞に推薦されますが、これを辞退、その後も数々の賞を辞退しています。

山本周五郎曰く「読者から寄せられる好評以外に、いかなる文学賞もない」と言うことです。

周五郎の小説には、世間で虐げられている人がたびたび登場します。日陰にいる人たちにスポットを当て、貧困や憎しみを生み出す背景を探りつけています。

平穏や快適さの裏側にある出来事、それと向き合い、強く生きるためのいくつかのメッセージが周五郎の小説には隠されています。「縦ノ木は残った」は代表作の一つです。昨年「ドラマ折り鶴」を見ました。裕福でない武家の四男坊は、ある日、道ですれ違った娘に一目ぼれ。しかし四男坊は部屋住みの身、娘をめとることが叶いません。武家社会を舞台にした「人として大切なものは何か！」を問いかけた作品です。感動しました。監督・黒沢明、三船敏郎主演「椿三十郎」も周五郎作品です。目下、区の図書館を利用し山本周五郎作品を読み漁っています。

特許

油脂ゼロポンプ、dspハイブリッドシステム推進中！ クリーンテックサービス東京